

新シュレッダー開発

破砕機メーカー大手の近畿工業(本社〓兵庫県三木市、和田直哉社長)は工業系雑品スクラップの破砕・分離処理に特化した「スーパーシュレッダー」を開発し、今年12月から本格販売する。鉄や銅、アルミなどが複合するため、雑品スクラップの選別処理は困難だが、新開発した「スーパー

近畿工業

シュレッダー」では破砕しながら各種金属に分離することにより、破砕の後工程となる選別工程を高精度化。同社では機械単体での販売以外に、金属選別機等を組み合わせたフロント販売、既存選別ラインへの導入などを提案していく方針という。



「スーパーシュレッダー」

工業系雑品スクラップは鉄や非鉄金属類が複合しているため、選別処理が困難で国内処理コストが合わず、中国向けに輸出されるケースが多い。一方で中国経済の減速による資源需要の低迷、さらに国内側からの品質要求などが年々高まるほか、資源循環リサイク

ルの観点から国内での選別処理を求める声も出ていた。

同社ではこうした市場ニーズに対応するため、銅含有率の高い工業系雑品スクラップの処理に特化した「スーパーシュレッダー」を開発。鉄や銅、アルミなどの金属が混合する雑品スクラップを破砕するとともに、選別しやすいように金属を分離するために本体内部や破砕するハンマーの

雑品スクラップに特化

選別工程を高精度化

形状、ハンマーの回転速度などの最適化を図

本部分にはシンダールで開閉可能な設計を採用しており、ハンマーやライナー交換などのメンテナンスも容易という。投入口は1000ミリ角で、時間当たりの処理量については約2トンを想定している。

雑品スクラップの処理工程では、非鉄金属の抱き込みや金属同士の絡まりを抑制。高い分離性能に加えて、選別精度を低下させないように過粉砕を防止することにより、非鉄選別機などフロントに組み合わせたなどの選別工程で、破砕分離された雑品スクラップを鉄・銅・アルミ等へ高い精度で選別処理することが出来る。



同社は年内の市場投入に向けて、昨年開設した近畿メカノケミカル研究所を中心に、データ解析や分離破砕テストの最終調整を進めている。本社工場での見学も受け付けて同月から開始する予定。販売価格は未定だが「1基5000万円以内を抑えるようにコスト面等の見直しを進めている」と同社という。